

# 放送番組センターレポート

BROADCAST PROGRAMMING CENTER OF JAPAN Report

公益財団法人 放送番組センター

〒231-0021 横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター  
TEL.045-222-2881 FAX.045-641-2110 <https://www.bpcj.or.jp/>

## ■第51回名作の舞台裏 『パパはニュースキャスター』

3月21日、ドラマ番組のスタッフや出演者が自ら制作した番組を振り返る人気公開セミナー「名作の舞台裏」を開催した。第51回は、昨年4月に永眠された田村正和氏がコメディに主演して話題となった『パパはニュースキャスター』（1987/TBS）を取り上げた。

### 【ゲスト】

西尾まり（出演）、大塚ちか子（出演）、  
鈴木美恵子（出演）、伴一彦（脚本）、  
八木康夫（プロデューサー／放送人の会）  
【司会】堀井美香（TBS アナウンサー）



独身貴族の人気キャスター・鏡竜太郎と、突然現れた「あなたは私のお父さんです」と主張する母親の違う3人の娘たちとの同居生活を描いた『パパはニュースキャスター』は、35年前の作品ながら息の長い人気を誇る番組である。今回のセミナーには3人の娘が揃うということもあり、およそ1500名の応募があった。

冒頭、ゲストが壇上に揃うと、司会の堀井氏が「豪華なメンバーが揃った。3人の娘たちが並ぶのを見るのは感慨深い」と語り、同窓会さながらの雰囲気の中、セミナーが始まった。

八木氏と伴氏は『うちの子にかぎって…』（1984・85）で、田村正和氏と初タッグを組んだ。後に『パパはニュースキャスター』誕生に繋がる作品制作のきっかけについて、八木氏は「『くれない族の反乱』（1984）の最終回、親子の別れのシーンでの田村正和さんと子役の芝居がとても切なく、見ていて涙が出てきた。それまでの田村さんは二枚目で、ラブストーリーのイメージが強かったが、子どもとの芝居も魅力的だと思った」と振り返った。



また八木氏は『うちの子にかぎって…』オファー時のエピソードを明かした。天下の二枚目が子どもにやり込められるという設定を聞いた田村氏のマネージャーから「何て役をやらせるつもりだ」と怒られたが、田村氏に直接相談したところ、「やります」と即答してくれた。スケジュール的にタイト

### 「BLセレクション」始動

2022年春、放送ライブラリーの新企画として、番組上映会「BLセレクション」がスタートした。この企画では、放送ライブラリーのバラエティー豊かなアーカイブの中から、担当者による“押し作品”を様々なラインナップで紹介する。今まで知らなかった番組を発見したり、懐かしい番組と再会したり、それぞれの世代にとって放送番組との出会いの好機となるよう、年3～4回の開催を計画している。

だったにもかかわらず、受けてもらったことが今でも信じられないという。『子供が見てるでしょ!』（1985）でも田村氏が子どもと絡む設定で、その次の主演ドラマを考えていたところ、八木氏の妻が「ニュースキャスターがいいんじゃない」と言ったことからアイデアが広がった。『ニュースステーション』の久米宏氏が注目されていた頃だった。

初タッグ時から脚本を手掛ける伴氏は、田村氏の作品におけるこだわりについて、「田村正和でどう遊ぶかを考えていた。まさかこんなことはやらないよね、ということを書くと、その上をやってくれた」と話した。また“ニュースキャスター”を知るため、当時フジテレビの逸見政孝氏に話を聞いたという。1話目の台本で『本日から番組を担当する』と書いていたのを、「『“本日”とは言いません。“今日から”です』と指摘された」と裏話を語った。



この作品で多くの視聴者の記憶に残るのは、娘の名前が3人とも「愛（めぐみ）」という設定。伴氏が「子どもと田村さんを組み合わせるなら、1人より2人、いや3人の方が面白い。“3人とも同じ年で同じ名前”ということも、最初の打ち合わせで決まるくらいの勢いだった」と振り返ると、八木氏は「西尾さん、鈴木さんは『うちの子〜』に出ていたので、続けて出てもらおうと思っていた。あと1人は、2人とは違ったキャラクターの子をと思ってオーディションをした。西尾さんはコメディ、鈴木さんは情、大塚さんはドライな部分と、伴さんが書いたキャラクターをしっかりと演じ分けてくれた。1回目から『これは面白くなる』という確信を持った」と続けた。

また当時の西尾氏について、「役者には喜劇ができる役者とできない役者がおり、経験や訓練でできるものではない。真面目にやるほど面白い、そんな天性の喜劇役者が、大人では田村正和、子役なら西尾まり」と評した。



思い出に残るシーンを尋ねられ、西尾氏は「3人の掛け合いが多く、楽屋でよく練習した。誰かが練習を始めると残りの2人も自然とそれに続けてしまう。掛け合いでNGを出した記憶があまりない」と言うと、大塚氏が「実は、田村さんとのシーンで10回くらいNGを出したことがある」と明かした。「台詞自体は『うん』など

短かったにもかかわらず、あまりに何テイクも重ねるので“田村さんが怒っている”と勝手に思ってしまう、どんどん緊張が増してしまった」と話すと、八木氏が「田村さんは相手が子役や新人でも絶対に手を抜かない。相手が何回NGを出しても、AD任せにせずずっと付き合う。本当の意味でプロの役者だった」と振り返った。西尾氏も「最初は台本にそれぞれの台詞がちゃんとあったのに、そのうち“愛たちワイワイ”みたいにお任せになっていった。ずっと3人でワイワイやっているのになかなかカットがかからない。それにも正和さんはずっと付き合ってくれた」と懐かしんだ。「本当に怒ると京都弁になる」「楽しくなってくると反応に困るようなギャグを言い始める」など、当時さながらに3人の娘たちが田村氏の一面を口々に語り始めると、八木氏も「人を笑わせるのが快感だったのでは。リハーサルでスタッフがどっと受けているとすごく嬉しそうだった」と語った。



さらに、田村氏の現場での様子について大塚氏は「田村さんは現場に台本を持ってこない。本物のプロは、台詞を頭の中に完璧に叩き込んでくるんだと思った」と当時の驚きを語った。八木氏も「リハーサルでほぼ頭に入っていたと思う。VTRだから何度も撮り直せるが、テイク1が勝負だと集中してやられていた」と、当時の田村氏の姿勢を称えた。鈴木氏は「ワンシーン撮り終わるとヘトヘトになった。それは疲れではなく、本気でやっていたから。田村さんがそれをさせてくれたと思う」と、当時を思い出して涙ぐんだ。

セミナー終盤、田村氏への思いや作品について改めて触れた。伴氏は、「自



分が紹介される時に、今もこの番組が出てくる。35年も前の作品なのにこの思いがあったが、今は田村さんと一緒に作品を手掛けられたことを感謝している」と語った。西尾氏も「田村さんが亡くなりとても悲しかったが、『頑張れよ』と言われているようで背筋が伸びた。どんな新しい現場に行っても、自分の原点はこのドラマ。それに恥じないようにやっていきたい」と語った。大塚氏は「当時はすごい作品に出ているという実感はなかったが、こうして長く愛されている作品に出られたことは本当に幸せ」と語り、鈴木氏も「様々な現場で『番組を見ていた』と言われるのは本当に嬉しい。だからこそ今も役者を続けているのだと思う。田村さんから受け取ったものは、次に渡さなくては」と語った。最後に八木氏が、「子どもの頃、『うちのパパは世界一』など海外のホームドラマを見て育ったことが自分の原点。40年間ドラマを作ってきたが、田村さんと出会い様々な形のホームドラマを作れて、幸せなプロデューサー人生だった。今日は田村さんを偲ぶ良い会になった」と締めくくった。



来場者からは、「当時の事を思い出した」「3人の娘が揃った姿を見られて感動した」との声が多数寄せられた。楽屋裏では、“3人の愛”が劇中そのままに思い出話に花を咲かせる姿も見られ、登壇者と参加者ともにタイムスリップした1日となった。

## ■2022春の人気番組展

4月22日～6月5日、地上8局・BS8局の協力を得て、恒例の「春の人気番組展」を開催した。

感染状況に大きな変化がなく、緊急事態宣言発令などもなかったことから、全体の来館者数は増えてきている。会期中、近隣で大型イベントの開催があった日などは、人気番組展の会場も賑わいをみせていた。今回は、地元横浜が舞台となっているNHK連続テレビ小説『ちむどんどん』関連の展示や、開局50周年を迎えたテレビ神奈川の展示などに関心が集まった。

## ■BLセレクション

「BLセレクション」第1弾は、4月22日～5月8日、「大人も楽しい子ども番組」と題して開催した。大人も思わず見入ってしまう「子ども向け番組」を厳選し、ことば・音楽・理科・美術、楽しいお話、料理など、柔軟な発想で制作された番組21本（テレビ19本、ラジオ2本）を取り上げた。

来場者からは『クインテット』や『す

イエんサー』が懐かしく、楽しめた』『ひとつのシリーズが並ぶより、今回のようにいろいろな番組が見られるほうが面白い』などの感想が寄せられた。

紹介した番組は、『日立テレビシティ ニャロメのおもしろ数学教室』（1982年・TBS）、『ハッチポッチあんこーる [1]』（2003年・NHK-E）、『にほんごであそぼ』（2004年・NHK-E）、『でんじろう先生の日曜実験室 ラブラボ！電子レンジ』（2006年・中京テレビ）、『室井滋のしげちゃん☆おはなしラジオ』（2014年・FMとやま）、『びじゅチューン！オフィーリア、まだまだ』（2014年・NHK-E）、『おとぼけのぼうけんセレクション1』（2015年・NHK-R1）、『プチプチ・アニメ こにぎりくん』（2015年・NHK-E）など。来場者はのべ213人。

7月12日～9月4日の第2弾は「ローカル・ドラマ紀行」と題し、全国の放送局が制作したドラマを特集する。

## ■沖縄に関連した3つの催事を実施

◇5月13日～7月3日、番組を

視聴する会「沖縄を伝える・記録する・考える～本土復帰50年に寄せて～」を開催した。第二次世界大戦から現在までの沖縄の歴史を伝えるドキュメンタリー6本を紹介したほか、6月10日からは沖縄の文化や自然を取材した『世界遺産』（TBS）2本を、別会場で特別に上映した。

◇6月11日、情文ホールで公開セミナー第10回「ラジオを楽しむ！」を開催した。[J-WAVE SELECTION GENERATION TO GENERATION ～STORIES OF OKINAWA～]を鑑賞後、出演の川平朝清氏とジョン・カビラ氏親子、プロデューサーの高知尾綾子氏が登壇した。この模様は、3月にサテライト・ライブラリーを開設した沖縄県立図書館にも配信した。

◇6月26日、沖縄県立図書館で公開セミナー「放送アーカイブで語る沖縄の今」を開催した。沖縄出身の番組制作者3人が、沖縄への思いや放送番組の利活用の意義などについて語った。

## ■理事会・評議員会を開催

### 【第1回理事会】

6月6日開催の第1回理事会で、2021年度事業報告ならびに収支決算案、2022年度定時評議員会の議案を承認した。また、次期事業方針策定に関して、骨子案と今後の策定スケジュールについての報告を了承した。

### 【定時評議員会】

6月22日開催の定時評議員会で、定款の役員定数を変更の上、次期理事22名と監事1名、評議員2名を選任した。また、2021年度事業報告ならびに決算報告を承認した。

### 【臨時評議員会】

7月14日開催の臨時評議員会で、評議員1名を選任した。

<2022～2023年度役員> ★は新任

会長：福田 俊男（テレビ朝日

特別顧問）

専務理事：斎藤 信吾

常務理事：大橋 一三

理事：池端 俊策（日本脚本アーカイブズ  
推進コンソーシアム 代表理事）

大友 淳（TBSテレビ 取締役）

岡室 美奈子（早稲田大学 教授・  
坪内博士記念演劇博物館 館長）

小川 晋一（フジテレビジョン  
専務取締役）

音 好宏（上智大学 教授）

喜早 冬比古（ACC 専務理事）

熊谷 典和（テレビ神奈川  
代表取締役社長）★

熊埜御堂 朋子（日本放送協会 理事）★

坪内 弘樹（札幌テレビ放送  
常務取締役）★

中嶋 太一（日本放送協会 理事）★

中町 綾子（日本大学 教授）★

波多野 宏之（駿河台大学 名誉教授）

林 理恵（日本放送協会 専務理事）★

福井 澄郎（関西テレビ放送  
取締役相談役）★

福浦 与一（全日本テレビ番組  
製作社連盟 理事長）

福田 博之（日本テレビ放送網  
取締役常務執行役員）★

星崎 雅代（横浜市 経済局長）

堀木 卓也（日本民間放送連盟  
専務理事）★

前田 哲男（弁護士）★

監事：江口 貴之（日本放送協会  
グループ経営戦略局専任局長）★

渡邊 敬夫（公認会計士）

### <評議員>

評議員長：濱田 純一（東京大学  
名誉教授）

評議員：荻野 アンナ（慶應義塾大学  
名誉教授）★

亀淵 昭信（元ニッポン放送  
代表取締役社長）

河野 尚行（元日本放送協会 専務理事）

五大 路子（女優）★

菅谷 実（慶應義塾大学 名誉教授）

高橋 雄一（テレビ東京ホールディングス  
特別顧問）★

藤井 宏昭（国際交流基金 顧問）

## ■ 公共施設での番組利活用

### 【夕張市拠点複合施設りすた（北海道）】

5月18日、市民向けの集団視聴が行われ、『テレメンタリー 2011 ヤマの記憶 ～山本作兵衛が残した心～』（2011 /九州朝日放送）が上映された。

## ■ 教育機関での番組利活用

### 【女子美術大学附属中学校】

今年度、2年生「修学旅行事前学習」の授業で『描けなかった2枚の絵 原爆が投下された日の記憶』（2008 / テレビ新広島）が利用された。

### 【関西大学】

今年度春学期、社会学部メディア専攻「放送ジャーナリズム論」（松山秀明准教授）の授業で毎日放送制作の『映像90 よみがえる調べ 天才バイオリニスト渡辺茂夫』（1996）、『映像'07 私は生きる～JR福知山線事故から2年～』（2007）など7本が利用された。

### 【桜美林大学】

①今年度春学期、芸術文化学群ビジュアルアート専修「ドキュメンタリー論A」（田淵俊彦非常勤講師）の授業で『ノンフィクション劇場 忘れられた皇軍』（1963 /日本テレビ）が利用された。

②今年度春学期、リベラルアーツ学群「ドキュメンタリーを見る」（塚本壮一教授）の授業で『日本の素顔 [99] 奇病のかげに』（1959 /NHK）、『JNNルポルタージュ 3・11大震災 記者たちの眼差し』（2011 /TBS）、『NNNドキュメント' 11 3・11大震災シリーズ23 海鳴り 娘よ…今どこに』（2011 /ミヤギテレビ）、『風に舞う夢 西南戦争 九州を駆けた若者たち』（1993 /RKB毎日放送）など6本が利用された。

### 【上智大学】

①今年度春学期、文学部新聞学科「ジャーナリズムの現在I」（音好宏教授）の授業で『映像90 ふつうのまま

である障害者夫婦の日常』（1999 /毎日放送）など6本が利用された。

②今年度春学期、文学部新聞学科「デジタルアーカイブ論」（柴野京子教授）の授業で放送番組センターが著作権を持つテレビ番組6本が利用された。

### 【広島大学】

今年度第2ターム、教養教育「日本国憲法」（畑浩人講師）の授業で『NNNドキュメント' 07 声の壁 発言できない議員』（2007 /中京テレビ放送）、『NHK特集 最高裁判所』（1987 /NHK）の2本が利用された。

### 【カレンダー】

7/12 -9/4	BLセレクション 「ローカル・ドラマ紀行」
7/29 -9/19	企画展 「テレビとCMで見る平成・令和と歴史展2022」
7/30	日テレ体験教室
8/11	ラジオ・DJ体験教室
8/19	アナウンサー体験教室

## ■ 2022.3～2022.5の公開番組

### 【テレビ番組】

『HTB開局50周年記念ドラマ チャンネルはそのまま!』〔1〕～〔5〕  
2019.03.18～22 /北海道テレビ放送  
『栃木の偉人 日立をつくった男 小平浪平』

2019.12.29 /とちぎテレビ

『KNBふるさとスペシャル 19人を殺した君と重い障がいのある私の対話』

2019.11.24 /北日本放送

『回天 二つの心』

2019.05.24 /山口朝日放送

『第34回民教協スペシャル サンマデモクラシー』

2020.02.08 /沖縄テレビ放送

### 【ラジオ番組】

『CBC創立70周年特別番組 ルーツ』

2020.12.16 /CBCラジオ

『特別番組 ラジオ、出しときますね

日本初の院内ラジオ「フジタイム』

2021.05.30 /東海ラジオ放送

など、テレビ140本、ラジオ42本。

## 新公開番組 PICK UP!

### 今日もがんばっていきましょう! 2万人とつながる農業ユーチューバー

2019.05.21 /中国放送

ディレクター: 山本和宏

プロデューサー: 神尾正博、三村千鶴

人口2400人ほどの東広島市福富町に暮らす農業ユーチューバー・原田賢志さんの1年に密着したドキュメンタリー。

独学で農業を始めた原田さんは、自動車整備業との兼業農家。誰でも家庭菜園を楽しめるようにと、懇切丁寧な解説とドローンによる美しい映像で750以上の動画を投稿してきた。チャンネル登録者数は2万人以上を誇る。動画冒頭での「今日もがんばっていきましょう!」という決め台詞は、いつしか動画を視聴する農家たちの合言葉となり、原田さん自身をも鼓舞してきた。

しかし、2018年の西日本豪雨で原

田さんの農園は大きな被害を受け、動画投稿もままならなくなる。その時に励ましてくれたのは、SNSで交流していた茨城県の農家だった。この農家は東日本大震災時の風評被害に悩まされた経験があり、過去の自分を原田さんに重ねたという。2人が語り合う場面で、「農業は孤独」とこぼす言葉が印象的である。

農業の担い手が減っていく一方で、全国の農家がYouTubeでつながっている。学校菜園のことで悩み原田さんに手紙を書いた小学生は、「将来は原田さんみたいなプロの農家になりたい」と目を輝かせる。一次産業の高齢化が進む中、SNSが大きな役割を果たし農業の未来を明るく照らす姿は、我々にも希望を抱かせてくれる。

### ◆ 放送ライブラリー公開番組数

テレビ番組 18,390本 / ラジオ番組 4,922本 / テレビ・ラジオ CM 12,200本 / 劇場用ニュース映画 2,683項目 (2022.6.30現在)